

修復完了記念 館蔵全巻特別公開

国宝 源氏物語絵巻

2021年11月13日(土)～12月12日(日)

主催：徳川美術館・名古屋市蓬左文庫

徳川美術館所蔵の国宝「源氏物語絵巻」は、『源氏物語』を絵画化した現存最古の物語絵巻で、平安の王朝文化を象徴する名画のひとつとして世界的にも有名です。もとは3巻の卷子装でしたが、保存と公開の観点から昭和7年(1932)に額面装に改められました。

当時としては最善の判断でしたが、80余年を経て額面装による弊害が生じたため、平成28年(2016)から5年にわたる保存修復を行い、詞と絵が響き合うよう本来の卷子装に戻しました。

令和2年(2020)に全15巻の修復が完成したことを記念し、前後期で展示替えを行いながら、全巻を特別公開いたします。

前期：11月13日(土)～30日(火) 後期：12月1日(水)～12日(日)

- ・作品番号の左横の「◎」は国宝、「◎」は重要文化財です。
- ・都合により出品作品が変更になる場合がございます。
- ・展示リストの順番は陳列の順番と必ずしも一致しません。
- ・所蔵は全て徳川美術館です。

No.	作品名	筆者・伝来など	時代・世紀	期間
一、江戸時代の伝来				

国宝「源氏物語絵巻」は、今からおよそ900年前、平安時代・12世紀前半に製作されたとされる絵巻です。当初は54帖すべてが絵画化されたはずですが、現存するのは徳川美術館所蔵(徳川本)の詞書16段・絵15図、五島美術館所蔵(五島本)の詞書4段・絵4図の13帖分に、諸家に伝わる断簡を含めても20帖で、大半は失われたとみられます。

伝来の多くは謎に包まれています。江戸時代後期には尾張徳川家に3巻(徳川本)、また阿波蜂須賀(あわはちすか)家に1巻の絵巻として伝わったことがわかっています。徳川本の3巻は、1巻(甲巻)が名古屋城二之丸に、残り2巻(乙・丙巻)が江戸の市谷(いちがや)上屋敷に収蔵されていました。別々に保管されていたため、同一の絵巻と判明したのは、明治時代になってからです。

1	御側御道具帳 五 五冊の内		江戸時代 19世紀	
2	東京廻御側御道具類		江戸-明治時代 19世紀	
3	源氏物語絵巻 旧表装・旧箱(卷子装)		江戸時代 17-18世紀	
4	源氏物語絵巻 折紙・極札		江戸時代 18-19世紀	
	甲巻 極札 畠山牛庵(2代)・古筆了延			
	乙・丙巻 極札 畠山牛庵(2代)・恒川了廬、小札 古筆了意、折紙 住吉広行			
5	源氏物語絵巻 乙巻 模本 二巻の内上巻	住吉広行筆	江戸時代 18-19世紀	

二、近代から現代まで 改装と模本				
------------------	--	--	--	--

尾張徳川家伝来の「源氏物語絵巻」は、明治14年(1881)の文部省博物局の調査により、3巻が同一の絵巻と判明しました。これ以降、平安時代を代表する至宝として世に知られるようになり、展覧会に出品される機会も増えました。

その一方で、尾張徳川家19代義親(よしちか・1886～1976)は、開閉のたびに絵巻の損傷が進むことを危惧し、その保存法を模索しました。熟慮の結果、絵巻の紙継ぎをはずし、詞書と絵をそれぞれ平面の状態で台紙に貼り、額に入れて収納すること、そして模本を製作し、普段の鑑賞や研究には原本の代わりにこれを宛てることで、絵巻の保存を図ろうとしました。近代以降、模本製作は数度におよび、近年では科学的調査に基づいた復元模写と東京藝術大学の学生による現状模写が行われました。

6	御世襲附属物目録 三冊の内		明治26年(1893)	
7	源氏物語絵巻 コロタイプ複製	國華社製	大正4年(1915)	
8	黎明会記録	鈴木信吉著	昭和31年(1956)	
9	◎ 葉月物語絵巻 第四段 詞書	伝後二条天皇筆	鎌倉-南北朝時代 14世紀	前期
	◎ 葉月物語絵巻 第四段 絵		平安時代 12世紀	前期
10	◎ 葉月物語絵巻 第六段 詞書	伝後二条天皇筆	鎌倉-南北朝時代 14世紀	後期
	◎ 葉月物語絵巻 第六段 絵		平安時代 12世紀	後期

No.	作品名	筆者・伝来など	時代・世紀	期間
11	葉月物語絵巻 旧表装・旧箱		江戸時代 17-18世紀	
12	葉月物語絵巻収納簞笥	仰木政斎作	昭和8年(1933)	
13	源氏物語絵巻 旧表装・旧箱(額面装)		昭和7年(1932)	
14	源氏物語絵巻収納簞笥	仰木政斎作	昭和10年(1935)	
15	源氏物語絵巻 模本 三巻の内中巻	田中親美筆	昭和10年(1935)	
16	源氏物語絵巻 木版複製 五十六面の内	川面義雄作	昭和18-38年(1943-1963)	
17	源氏物語絵巻 関屋・鈴虫(二) 復元模写 十九面の内	桜井清香筆	昭和33-38年(1958-1963)	
18	源氏物語絵巻 関屋 絵 復元模写	加藤純子筆	平成17年(2005)	
19	源氏物語絵巻 柏木(一) 絵 復元模写	宮崎いず美筆	平成17年(2005)	
20	源氏物語絵巻 柏木(三) 絵 復元模写	林功筆	平成11年(1999)	
21	源氏物語絵巻 宿木(一) 絵 復元模写	加藤純子筆	平成17年(2005)	
22	源氏物語絵巻 横笛 詞書第一・二紙 現状模写(東京藝術大学)	宮川佑介筆・同氏寄贈	平成23年(2011)	
23	源氏物語絵巻 横笛 絵 現状模写(東京藝術大学)	宮川佑介筆・同氏寄贈	平成23年(2011)	
24	源氏物語絵巻 早蕨 詞書第一・二紙 現状模写(東京藝術大学)	杉山愉岳筆・同氏寄贈	平成23年(2011)	
25	源氏物語絵巻 早蕨 絵 現状模写(東京藝術大学)	杉山愉岳筆・同氏寄贈	平成23年(2011)	

三、修復・改装後の国宝「源氏物語絵巻」

「源氏物語絵巻」の額面装への改装は当時としては最善の判断でしたが、次第にその弊害も目立ちはじめました。このため将来的な保存を考慮して、平成24年(2012)から令和2年(2020)春まで、二期にわけて修復を行い、再び卷子装に戻すこととしました。

すべての詞書と絵の修復および卷子装への改装が完了した結果、折れや皺(しわ)が解消され、本紙は平滑かつ安定した画面となり、卷子装特有の開閉にも支障のない状態となりました。また分断され額に入れられていた詞書や絵が繋げられて一続きとなったことで、詞書の優美な仮名の流れや料紙装飾の微妙な色の変化が明確にわかるようになり、詞書と絵とが互いに響き合う絵巻本来の姿がよみがえりました。

国宝
源氏物語絵巻

平安時代
12世紀

蓬生	前期
関屋・絵合	後期
柏木(一)	前期
柏木(二)	後期
柏木(三)	前期
横笛	後期
竹河(一)	前期
竹河(二)	後期

橋姫	前期
早蕨	前期
宿木(一)	後期
宿木(二)	前期
宿木(三)	後期
東屋(一)	後期
東屋(二)	前期
	以上

国宝「源氏物語絵巻」

国宝「源氏物語絵巻」は、12世紀前半に白河院・鳥羽院を中心とする宮廷サロンで製作されたとみられる現存最古の源氏絵です。絵は、やまと絵特有の「作り絵」という描法で、「引目鉤鼻(ひきめかぎはな)」とよばれる人物の顔の表現、屋根や天井を取り払って俯瞰的に描く「吹抜屋台(ふきぬきやたい)」の手法などにより、物語の抒情性や登場人物の心の動きまでもがみごとに描き出されています。

詞書は、11世紀以来の伝統を受け継ぐ優美な連綿の書風や藤原忠通(1097~1164)にはじまる法性寺流の新様の書風など5種類の書風(徳川美術館所蔵分は4種類)が混在しています。詞書は抄出文ですが、平安時代にさかのぼる現存最古の『源氏物語』のテキストとして、その価値は極めて大きいといえます。